

松山市から工業用水の転用について正式要請

1月12日、松山市の中村時

広市長と松山市議会の一橋邦雄議長が西条市役所を訪れ、

「愛媛県西条地区工業用水の一部転用について」の要望書を、伊藤西条市長と荻田西条市議会議長へ提出しました。

要望の内容は、黒瀬ダムから取水する工業用水（日量22万9000トン）に余剰があるならば、工業用水の使用目的を変更して、松山市の将来の人口増加に伴い不足することが予測される日量4万8000トンの水道用水として使用したいというものです。

伊藤市長は、「要請は真摯（しんし）に受け止め、市民、議会と共に取り組みたい」という回答をしました。



▲中村松山市長から伊藤市長に要望書が手渡されました。

西条市の考え方

今回の要請に対し、西条市は次のように考えています。

工業用水の問題は、西条市が松山市と分水について協議する場と、愛媛県公営企業管理局、新居浜市、西条市の3者で工業用水の活用について協議する場の二つがあると考えています。

市では、加茂川の水利権を保有している団体や企業等とも連携を取りながら、この問題に対して慎重に検討を行っていきたく考えています。

西条市の取り組み

市では「水資源対策調査研究会」を発足し、水道用水、農業用水、工業用水のすべてを対象として、長期間（10〜30年間）にわたる西条市全体の水需給計画や黒瀬ダムの水を活用した地域活性化策、地下水への影響などの検討を行っています。

今後市民の皆さんには、黒瀬ダムの建設目的や仕組み、歴史などについて、お知らせしていきます。

黒瀬ダムの概要について紹介します

当初計画から33年を経て完成した工業用水ダム

黒瀬ダムは工業用水ダムとして1939（昭和14）年に建設が着手され、戦争による中断を経て1961（昭和36）年に再開し、1973（昭和48）年3月に完成しました。

黒瀬ダムに蓄えられた工業用水は、工業都市としての西条の発展を支え、黒瀬ダムから加茂川に流れる水は、地下水の涵養に重要な役割を果たしています。

愛媛県西条地区工業用水の現状

黒瀬ダムの工業用水は、市内長瀬の取水堰で日量約5万5000トンの取水を行っています。（水利権使用許可は日量7万トン）



給水計画では日量22万9000トンを計画していますが、現在の給水量は41社と契約をし、日量5万2260トンの送水を行っています。契約量は全体の22.82%となっています。

■愛媛県西条地区工業用水の給水状況（平成17年12月現在）

給水先	給水計画量(日量)	契約給水量(日量) 計画量に対する割合	契約社数
旧西条市	129,000トン	28,470トン 22.07%	30社
新居浜市	64,000トン	17,300トン 27.03%	6社
旧東予市 (壬生川)	36,000トン	6,490トン 18.03%	5社
計	229,000トン	52,260トン 22.82%	41社

愛媛県下で2番目に大きなダム

黒瀬ダムは、愛媛県内では富郷ダムに次いで2番目に大きなダムです。西条市内には黒瀬ダムのほかに、建設中の志河川ダムがあります。



■愛媛県内の主なダム

管理	ダム名称	所在地	有効貯水容量 (千立方メートル)	用水の種類			
				水道	工業	農業	発電
国	富郷ダム	四国中央市	47,600	○	○	×	○
県	黒瀬ダム	西条市	34,000	×	○	×	×
県	鹿野川ダム	大洲市	29,800	×	×	×	○
国	野村ダム	西予市	12,700	○	×	○	×
国	石手川ダム	松山市	10,600	○	×	○	×
県	玉川ダム	今治市	9,100	○	○	×	×
国	志河川ダム	西条市	865	×	×	○	×

※志河川ダムは建設中です。

■黒瀬ダム（貯水池）の規模

- 集水面積 100.6 km²（直接：25.8 km² 間接：74.8 km²）
- 湛水面積 1.35 km²
- 総貯水量 3,600万m³
- 有効貯水量 3,400万m³
- 堆砂容量 200万m³
- 利水容量 2,800万m³（洪水期・7月1日～10月20日）
3,010万m³（非洪水期・10月21日～6月30日）
- 不特定かんがい容量 130万m³（6月6日～9月15日）